

健康 ぷらざ

がん検診を受けましょう

指導：国立がん研究センター中央病院 検診センター長 松田 尚久

企画：
日本医師会

No. 544

がん検診とは？

がん検診は、自覚症状のない健康な方が対象となります。もしがんが見つかって、症状が出る前のがん(=早期がん)であることが多く、有効な検診を定期的に受けることが大切です。

日本では、5つの「がん検診」が有効な検診として推奨されています。これらは、その有効性(死亡リスクを下げる効果)が科学的に証明されているものです。また、検診の利益・不利益のバランスを考慮して、対象年齢や受診間隔が定められています(表1)。



表1 日本で推奨されている「がん検診」

対象臓器	検診方法	対象年齢	受診間隔
胃	問診、胃部エックス線または胃内視鏡検査のいずれか	50歳以上*1	2年に1回*2
大腸	問診および便潜血検査(免疫法)	40歳以上	1年に1回
肺	質問(問診)、胸部エックス線検査および喀痰細胞診*3	40歳以上	1年に1回
乳房	問診および乳房エックス線検査(マンモグラフィ)	40歳以上	2年に1回
子宮頸部	問診、視診、子宮頸部の細胞診および内診	20歳以上	2年に1回

*1：胃部エックス線検査に関しては40歳以上に実施可

*2：胃部エックス線検査に関しては年1回の実施可

*3：喀痰細胞診は、原則50歳以上で、1日の喫煙の本数×年数が600以上の人に実施。過去の喫煙者も含む。

(厚生労働省「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」より作成)

がん検診の流れ

がん検診で「異常あり」と判定された場合には、必ず、精密検査や診断・治療を受けることが必要です。「異常なし」と判定された場合でも、次回の検診を受けることが大切です。今回「異常なし」であっても、将来的にがんの危険性がないということではないからです。いずれの検診でも100%がんを発見することはできませんので、その後、何か気になる自覚症状が認められた場合には、次の検診を待つことなく、すぐに医療機関を受診しましょう。

がん検診を受けましょう

検診で発見されるがんは、症状が出てから見つかるがんと比べてその後の経過が良いことがわかっています。また、治療による体への負担や経済的な負担も軽くて済みます。ぜひ、がん検診を受けましょう。

がん検診の案内は、各自治体(都道府県、市区町村など)で行われており、各自治体から委託を受けた医療機関などで、だれでも受けることができます。不明な点は、各自治体のがん検診担当窓口に尋ねてください。

日本医師会ホームページでは、健康ぷらざのバックナンバーがご覧いただけます。



日医
バーコード読み取り機能付き
携帯電話もしくはスマートフォン
でご利用になれます。